

第 25 回警察庁会計業務検討会議概要

〔案件 1〕 鹿児島県警察本部用指令通信装置（情報処理系）賃貸借

【委員】 落札率が高くなっているのはなぜか。また、他の都道府県警察でも同様の契約があり、これらをまとめて調達（共同調達）することはできないのか。

【回答】 通信指令装置は、通報分配系と情報処理系で構成されており、本案件は情報処理系のみの調達であり競争性が働かなかったのではないかと考えている。

また、共同調達については、各都道府県ごとに類似のシステムがあり、それと密接に接続する必要があるため現時点において難しい状況である。

【委員】 応札者が 1 者ということだが、6 回も入札をする必要があるのか。

【回答】 事業者に入札の参加意思があったため 6 回入札を行ったもの。

【委員】 応札者が 1 者ということであれば、官民の手間がかからないよう入札回数について柔軟に対応するよう次回以降ご検討いただきたい。

【委員】 ベンダーロックインと感じているが、構造的に仕方がないものなのか。何か対応策があるのか。

【回答】 接続部分の使用方法を開示したり、構成品を市販品としており、基本的には競争性が働くものと考えている。

〔案件 2〕 暗号資産取引分析ライセンス A ほか 1 点

【委員】 外国製品は代理店を通じて契約するものなのか。また、代理店によって価格が異なるのはなぜなのか。

【回答】 代理店を通じて契約するものであり、価格が異なる点については、マージン部分によるものではないかと考えている。

【委員】 ライセンス購入であれば、仕様書公開の段階で自社が扱えるものか判断できるところ、仕様書を交付した 3 者中 1 者が入札辞退している。これはどういうことか。

【回答】 電話で確認したところ、取扱いのないライセンスであったり、競争参加資格の欠如があったことから入札に参加できなかったものである。

【委員】 この落札した代理店は納入実績のある者なのか。

【回答】 他省庁での落札している実績は確認している。

〔案件 3〕 警視庁警察学校総合ビル管理委託

【委員】 労務単価の上昇を考慮して積算したとのことだが、他の入札者と比較して入札金額に若干の差がある。これは単に人件費の単価なのか、消耗品部分なのか、何が原因で落札者が安く入札できたのか。

【回答】 原因は不明であるが、落札者は以前にも落札実績があり、学校の設備に精通していたことによるものと思われる。

【委員】 前年の落札価格は、他の事業者が把握できるものなのか。

【回答】 入札に立ち会った事業者であれば把握できる。

【委員】 ビルメンテナンスを行っている会社は、何社程度あるのか。

【回答】 国費契約における事業者数は正確に把握できていないが、都費契約であれば100社程度である。

〔案件4〕クローズド環境下での生成AIのオンプレミス利用環境の構築・運用に係る調査研究事業

【委員】 技術的な検証について、他省庁等に技術協力や意見を求めたりしたのか。

【回答】 今回はクローズド環境で生成AIを利用できる環境を導入するという、技術的な前例があまり見当たらない事業であったことから、独自に試行錯誤をして検証を実施した。

【委員】 この生成AIは具体的にどのような業務での利用を想定しているのか。

【回答】 例えば、プログラミングについては、かなり効果があった。プログラミングの技術向上には技術の伝承がスタンダードであったが、生成AIを利用することでプログラミングの効率化や既存コードの処理スピード向上などの効果が出ている。

【委員】 クローズド環境下で生成AIの利用環境を整備したという説明であるが、クラウドで実施した方がコストが下がる場合もあるかと思うが、そこは一切できないという前提なのか。

【回答】 基本はクラウドでという政府の基本方針があるのは承知しているところ、警察情報を取り扱うものについてはクローズド環境下でという棲み分けである。

【委員】 一般市民からの簡単な質問をチャットで返すような、警察情報がないようなものはどうしているのか。

【回答】 一般的に、オープンな情報であればクラウド上で取り扱っても支障はないものと考えている。

【委員】 性能や価格を追求していくと外国製品が優位になってくる可能性がある一方、セキュリティ上の懸念が生じるおそれがあるが、このあたりはどのように対応しているのか。

【回答】 政府調達においては、いわゆるサプライチェーン・リスクへの対応として、一定の安全性を確認した製品を納入している。

〔案件5〕機動捜査用車

【委員】 事業者からすると利益があまり取れない取引になるのか。

【回答】 加工費や年々の物価高騰、賃金が上昇するなど事業者の利益は少なくなっていると思われる。

【委員】 仕様書の対象となる車両に対抗する車両があまりないとなると、なぜこの車両を選定したのか。

【回答】 付属装備品の検討やサイズ、排気量等の見直しを行う中で今回の仕様書となっている。

【委員】 この車両はハイブリットなのか。

【回答】 ハイブリットである。

【委員】 外国製の車両は検討しているのか。

【回答】 仕様書で国産でなければならないという記載はしていないが、補修の体制や関税の関係で車体価格の振りが大きくなる点を踏まえ、国内メーカーにより日本車が納品されているのが現状である。

〔案件6〕機動隊員用プロテクタ

【委員】 今回、落札した者はどのような会社なのか。

【回答】 警察官の被服等を落札したことがある者であり、プロテクタの話をしたところ、こちらにも参加いただけるようになった。

【委員】 民間の警備会社と同じ仕様なのか。

【回答】 全く同じではないと思われる。

【委員】 プロテクタを使用している他省庁と垣根を越えて共通化できないのか。

【回答】 例えば落水した時に浮くような仕様を求めているなど、それぞれ仕様の違いがあると思われる。

【委員】 警察庁が調達するものは特殊なものが多く入札に参加する事業者が少ない中、本件は競争性がとても働いている。様々な要素があるなかで、引き続きより良い方法を検討していただきたい。

委員講評

【委員】 物価高騰における中、非常に工夫や努力をして調達されている。一方でベンダーロックインに危惧があるものもあり、これについては中々難しいところがあるのはよく承知しているが、仕様を工夫するなどしてベンダーロックインとならないよう気をつけていただきたい。

【委員】 数年、委員をやらせていただいているが、過去に申し上げたことがかなり反映されている。当初は受け身の印象であったが、今は電話をかけるなど技術的に改善の対応されているように感じたので引き続きそういった形で業務を進めていただきたい。

【委員】 改善が毎回見えるなと思いながら参加させていただいているところ。今回の案件の中にはベンダーロックインの防止のための対応を意識した仕様書となっているものもあり、先回りした対応は非常に良い姿勢だと感じた。今回詰まったところは比較的聞かれるところでもあるので、あらかじめ想定される質問の回答を準備いただけるとより深い議論ができるので、ぜひご準備いただきたい。